

わたしの プロジェクト 北海道

旭川の「町工場」ダイコン出荷に一役

首都圏の青果売り場。数年前、同社の「大根洗浄機」で洗われて店頭に並んだ葉付きダイコンが評判になった。健康食品ームを追い風に大根洗浄機は全国に広がった。ダイコンの青々とした葉は栄養価が高く、新鮮さの証でもある。なのに、葉を切り落としたものばかりが流通していたのは、葉を折らずに洗える機械がなく、一本一本洗うには手間がかかるからだ。葉をつけたまま洗うこ

旭川市の農業機械製造「エフ・イー」が元氣だ。従業員20人足らずの町工場の製品が、農業生産地の競争力を押し上げることに一役買い、海外からも注目を浴びる。野菜を洗う。選り分ける。最近ではダイコンなどの根菜出荷で力を発揮する技術を、環境などの分野にも発展させている。

(旭川支局・中村尚徳)

洗浄機に「葉折らぬ」技

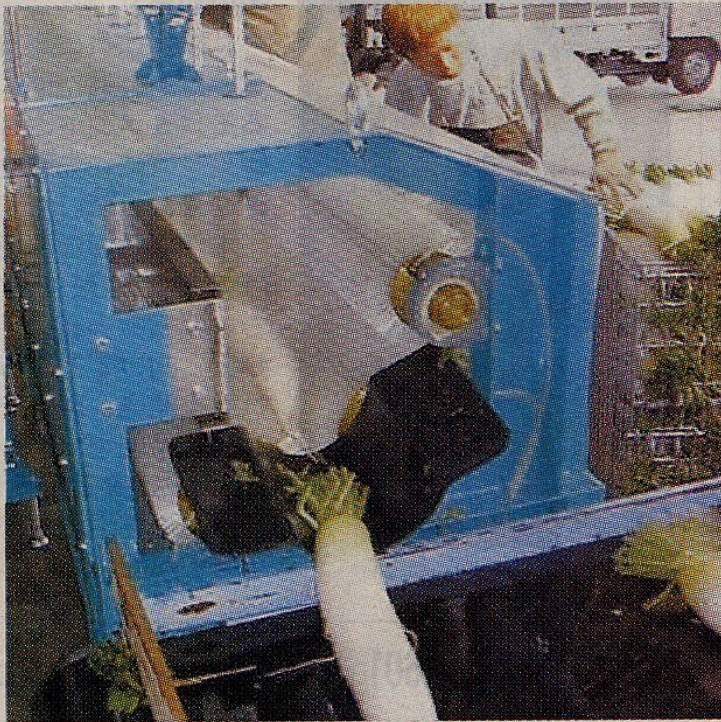
環境分野などへ応用も

とができないか。同社がた。この機械を使うと、試行錯誤を繰り返して、00ダイコンの葉は折れず、年に特許を得て売り出し 約5秒で泥が落ちる。1水を吸わなくて済む。

長時間に最大2千本を洗うことが可能という。シャワー状の高圧水を利用するため、鮮度が落ちる原因になる実の傷もつきにくい。また、水に長時間浸さないでも泥が落ちるのも利点だ。実がほかにカボチャ艶出し機、バレイショ選果機、ニンジン洗浄選別梱包機などを販売する。その一方で、農業以外の分野にも技術を生かしている。

例えば、凍結路面の滑り止め用小石や浄水場ろか池に敷く石・砂を再利用するため、洗って選別する機械に活用された。また、粉碎したホタテの貝殻でコンクリートの落書きを消す吹きつけ装置も作られた。分野はどんどん広がる。

大根洗浄機。回転するナイロン製ブラシは斜めに植えられ、実が傷つかない工夫がされている(エフ・イー提供)



91年に二つの鉄工所が合併。鉄の元素記号から取った社名は「原点を忘れない」の意味。電話0166・36・4501。

佐々木社長は「小さい会社でも良いものを世に出せば、世界に発信できる。これからのいろんな分野で開発を進めたい」と意気込んでいる。